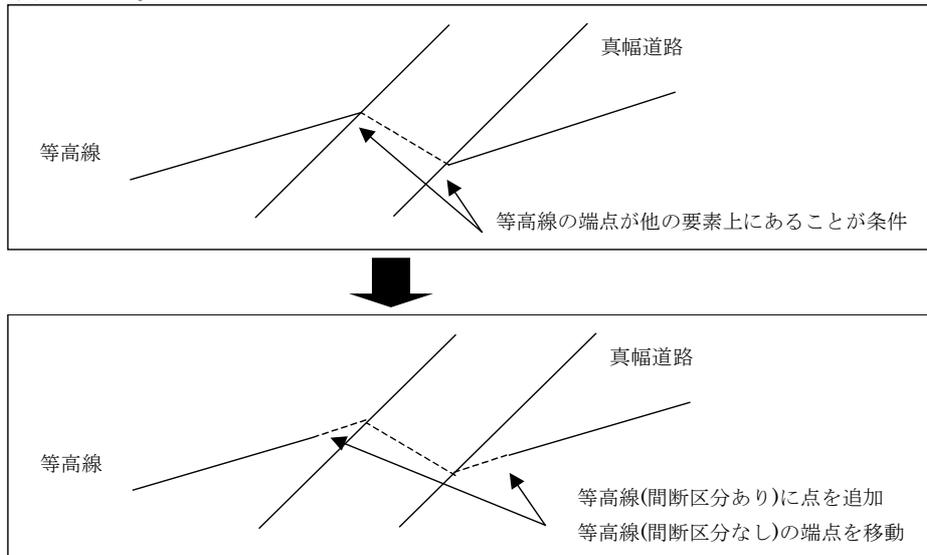


新メニュー[砂防基盤地図]-[等高線セットバック]を追加しました。
 以下は、操作説明書からの抜粋です。

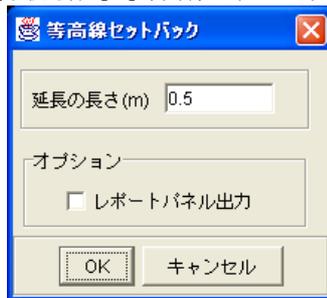
等高線セットバック

間断区分が設定されている等高線について、間断区分が設定されていない等高線と接している点から延長します。両方の等高線の端点座標が一致し、かつ真幅道路など他の要素の線上に乗っていることが条件です。他の要素が3次元あるいは2次元かは問いません。



この処理の前に[一括処理]-[等高線間断区分]などで、道路などの内側に間断区分が設定されていることが前提です。

メニュー[砂防新法]-[等高線セットバック]のダイアログで延長の長さを指定します。実座標でのメートル単位です。

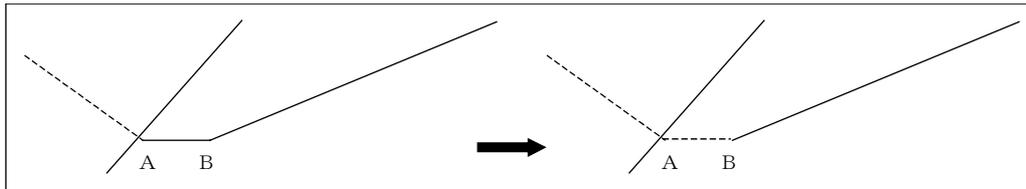


処理結果を[確認リスト]に表示します。

(119) 等高線を延長	等高線(計曲線)	(-57941.89, -84634.87, 200.00)	
(120) 等高線を延長	等高線(計曲線)	(-57963.83, -84623.03, 200.00)	指定された長さより短い延長(0.24) 相手の等高線を削除
(121) 等高線を延長	等高線(計曲線)	(-58439.77, -84348.43, 140.00)	指定された長さより短い延長(0.42)
(122) 等高線を延長	等高線(計曲線)	(-57917.82, -84771.75, 250.00)	
(123) 等高線を延長	等高線(計曲線)	(-58405.34, -84412.20, 140.00)	

ガイド レポート チェックリスト **確認リスト**

相手の等高線(間断区分なし)の端の線分の長さが、延長の長さより短い場合、その線分で端点を変更します。つまり、下図では、等高線(間断区分なし)の端の線分ABの長さが、延長の長さより短いとすると、両方の等高線の端点が点Aから点Bに変わります。この場合[確認リスト]にその旨を付加します。もし、相手の等高線(間断区分なし)が2点からなり、全長が延長の長さより短い場合、相手の等高線を削除します。この場合も、[確認リスト]にその旨を付加します。



この処理を実行する前に、チェックメニューで次の項目を確認・修正しておいてください。

- [点列チェック]での「次の点が同一座標(XYZ)」
- [点列チェック]での「次の点が近接」
- [線の重複チェック]での線の重なり
- [3Dチェック]で、等高線同士の交差や標高値の矛盾がないこと
- [等高線チェック]で、「等高線の分岐」がないこと
- [等高線チェック]で、「等高線の端点間の隙間」がないこと

この処理を繰り返すと、等高線が他の要素とほとんど平行になっている場合、いったん延長した端点が再度、他の要素上に乗っていると判定され、再度延長する場合があります。この処理は元に戻すことができるので、2回実行して、ほとんど平行になっている箇所を確認されることをお勧めします。

相手の等高線(間断区分なし)の端点で、同一座標の点が重なっている場合、処理を行わず、[チェックリスト]パネルに該当する位置をリストアップします。

(8) 端点が同一座標が重なっている等高線	等高線(主曲線)	(-58479.28,-84209.30,128.00)
(9) 端点が同一座標が重なっている等高線	等高線(主曲線)	(-58189.28,-84484.07,168.00)
(10) 端点が同一座標が重なっている等高線	等高線(主曲線)	(-58314.84,-84053.66,148.00)
(11) 端点が同一座標が重なっている等高線	等高線(主曲線)	(-58308.55,-84418.55,154.00)
ガイド	レポート	チェックリスト
		確認リスト